

## トビウオ通信 (R2 第10号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

### 《令和2年度下半期浮魚中長期漁況予報》

令和2年10月末に長崎で開催された東シナ海～日本海南西海域の対馬暖流域における主要浮魚類の長期漁況予報会議の内容をもとに、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚類のR2年の下半期(11～3月)の中・長期的な漁況を予測します。

#### 山陰沖における漁況(来遊)予報〔令和2年度下半期(11～3月)〕

マアジ:前年並み

マサバ:前年を上回る

マイワシ:前年を下回る

カタクチイワシ:前年を上回る

ウルメイワシ:前年並み

※「前年」は令和元年度下半期、「平年」は過去5年間の平均値を示します。

#### マアジは前年並み

**東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後** 東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマアジの漁獲量は、2～5万トン程度で推移しています。R1年の漁獲量は1.9万トンとなり、平年の6割でした(図1)。R2年1～9月の漁獲量は2.1万トンで前年同期の1.2倍でした。

同海域における沖合域の今後(11～3月)の漁況は、直近の漁況や調査船調査の結果などから前年並みと考えられます。また、沿岸域における今後(11～3月)の漁況は、前年・平年並みと予測されています。

**山陰沖の漁況と今後** 島根県の中型まき網によるマアジ漁獲量はH16年以降1.5～4万トン程度で推移しています(図1)。R2年1～10月のマアジ漁獲量は1.1万トンで、前年同期の7割・平年同期の6割でした。月別の漁獲量は、1～3千トンで概ね平年を下回りながら推移し、漁期のピークとなった5月は2.9千トンでした(図2)。

今後(11～3月)の漁況は、漁獲の主体となる0歳(R2年生まれ)・1歳(R1年生まれ)の来遊量によって決まります。毎年、島根県が他の研究機関と共同で行っているマアジ新規加入量調査※(マアジ0歳魚の山陰沖への来遊量の調査)の結果では、来遊量の多寡を示す加入量指数は前年を上回る値だったため、0歳魚(R2年生まれ)は前年並みか前年を上回ると予測されています。1歳魚(R1年生まれ)の資源量は前年と同等の資源量と考えられています。今後(11～3月)の漁況は、0歳魚が前年並みか前年を上回ると予測されていますが、直近の漁獲動向から前年並みと予測します。

※マアジ新規加入量調査の詳細については「トビウオ通信 R2年第7号」をご覧ください。

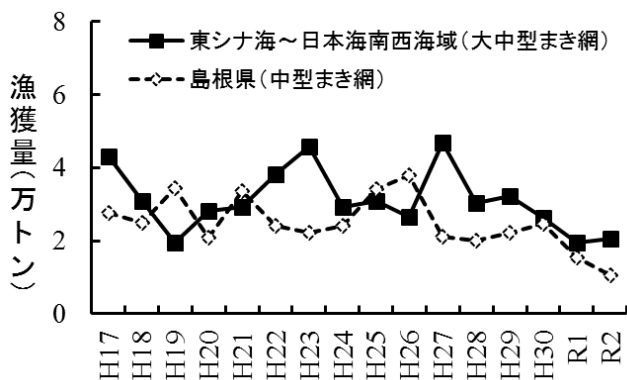


図 1. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）および島根県（中型まき網）のマアジの漁獲動向  
※R2年は9月までの集計値

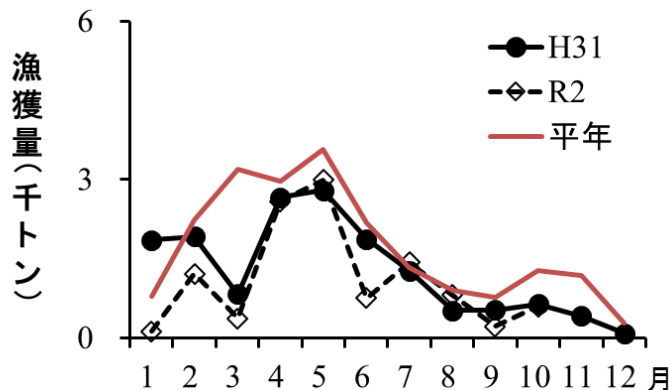


図 2. 島根県の中型まき網によるマアジの月別漁獲動向

## マサバは前年を上回る

**東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後** 東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマサバの漁獲量は、H19年以降増加傾向にありましたがH22年から増減を繰り返しています。R1年の漁獲量は2.7万トンとなり、平年の8割でした（図3）。R2年1～9月の漁獲量は1.2万トンで前年同期の5割でした。同海域における沖合域の今後（11～3月）の漁況は、前年を上回ると予測されています。一方、沿岸域における今後（11～3月）の漁況は、前年・平年並みと予測されています。

**山陰沖の漁況と今後** 島根県の中型まき網によるマサバの漁獲量は、1～2万トン程度で増減を繰り返して推移しています（図4）。R2年1～10月の漁獲量は6.5千トンで、前年同期の8割、平年同期の4割でした（図4）。

今後（11～3月）の漁況は、漁獲の主体となる0歳（R2年生まれ）・1歳（R1年生まれ）の来遊量によって決まります。例年、10月以降が主漁期となり0歳魚主体の漁獲で1歳魚以上が混じります。0歳魚の資源量は前年を上回ると予測され、1歳魚の資源量は前年を下回ると考えられています。今後（11～3月）の漁況は、0歳魚の資源量が前年を上回ることから低調であった前年を上回ると予測します。

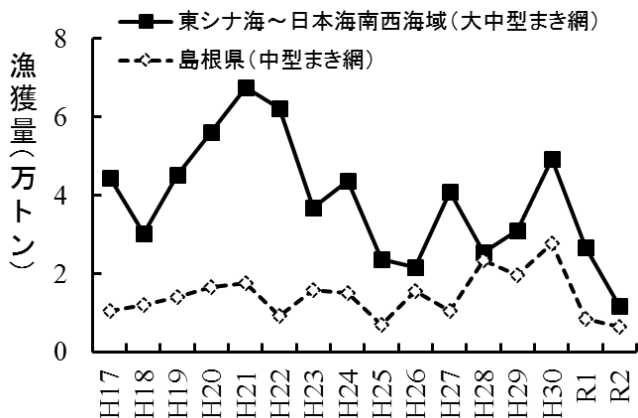


図 3. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）および島根県（中型まき網）のマサバの漁獲動向  
※R2年は9月までの集計値

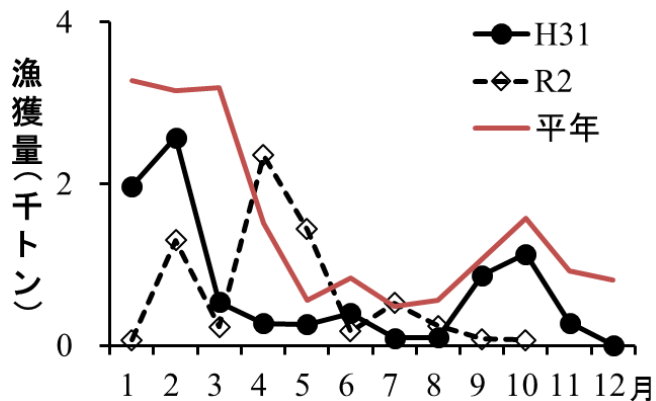


図 4. 島根県の中型まき網によるマサバの月別漁獲動向

## マイワシは前年を下回る

R2年の山口県～鹿児島県沿岸域における4～8月のマイワシの漁獲量は1.5千トンで、低調だった前年同期の24倍、平年同期並みでした。

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は、H22年まで極めて不調でしたが、H23年以降急増し、H26年及びR1年を除いて2～4万トン程度で推移しています(図5)。R2年1～10月までの漁獲量は2.6万トンで前年同期の10倍、平年同期の1.3倍でした(図6)。

今後(11～3月)の漁況は、0歳魚(R2年生まれ)・1歳魚以上(R1年以前生まれ)の来遊量によって決まります。0歳魚の資源量は前年を上回ると予測されています。1歳魚の資源量は前年を下回ると考えられています。0歳魚の資源量は多いとされていますが、R2年3月にあったような1万トンを超える漁獲の可能性は低いと考えられることから今後(11～3月)の漁況は前年を下回ると予測します。

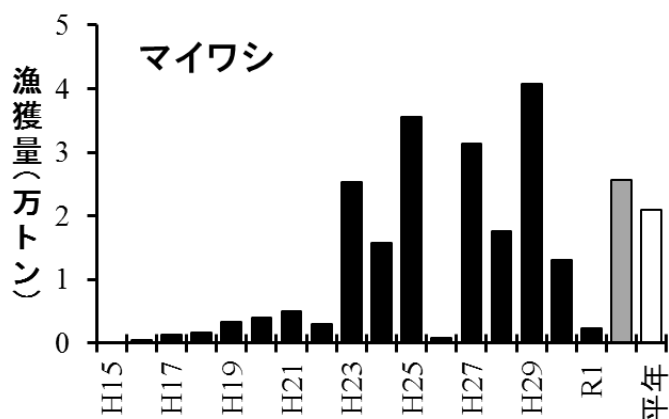


図5. 島根県中型まき網によるマイワシの漁獲動向  
※R2年は10月までの集計値

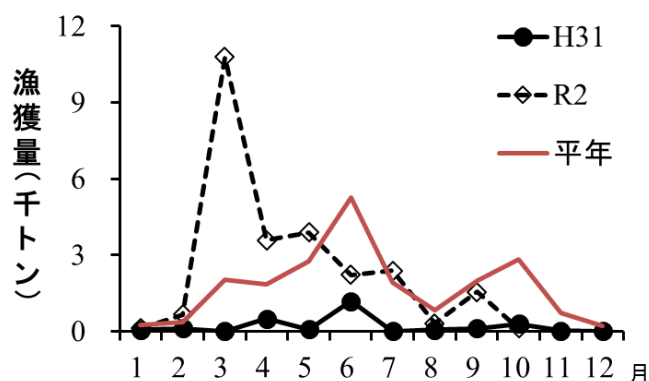


図6. 島根県中型まき網によるマイワシの月別漁獲動向

## カタクチイワシは前年を上回る

R2年の山口県～鹿児島県沿岸域における4～8月のカタクチイワシの漁獲量は、6.3千トンと前年同期・平年同期の6割でした。

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、H22年に1.5万トンの漁獲がありました。その後、減少傾向にあります。R2年1～10月までの漁獲量は4.5千トンで前年同期の1.7倍、平年同期の1.5倍でした(図7)。

今後の漁況(11～3月)は、0歳魚(R2年秋生まれ)・1歳魚(R2年春生まれ)の来遊量によって決まります。0歳魚(R2年秋生まれ)の資源量は前年と同等と予測され、1歳魚(R2年春生まれ)は前年を下回ると考えられます。資源量は前年と同等ですが、直近の9月、10月は漁獲量が好調で推移していること考慮すると今後(11～3月)の漁況は前年を上回ると予測します。

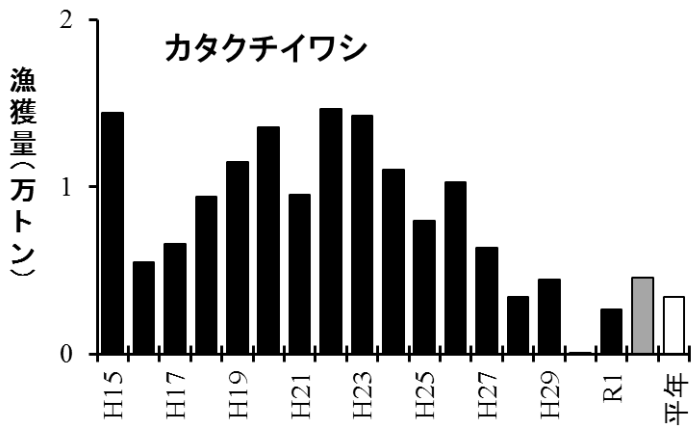


図7. 島根県中型まき網によるカタクチイワシの漁獲動向  
※R2年は10月までの集計値

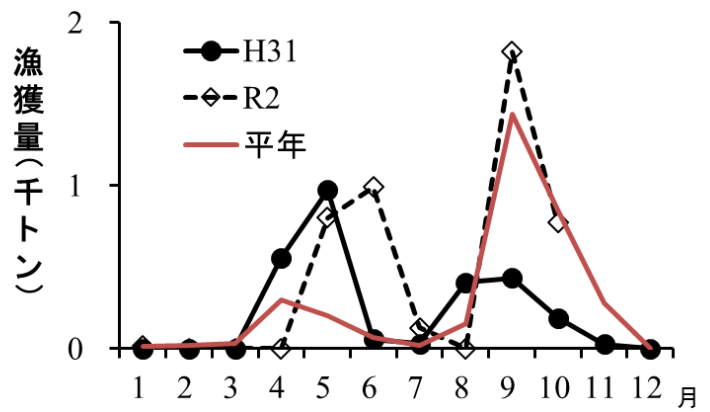


図8. 島根県中型まき網によるカタクチイワシの月別漁獲動向

### ウルメイワシは前年並み

R2年の山口県～鹿児島県沿岸域における4～8月のウルメイワシの漁獲量は、2.6千トンと前年同期の6割、平年同期の5割でした。

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、H14～30年は豊漁であったH23年、25年、R1年を除いて概ね3～9千トンで推移しています。R2年1～10月までの漁獲量は4千トンで前年同期の3割、平年同期の7割でした（図9）。

今後の漁況（11～3月）は、0歳魚（R2年生まれ）・1歳魚（R1年生まれ）の来遊量によって決まります。0歳魚・1歳魚の資源量は共に前年と同等と予測されています。以上より今後（11～3月）の漁況は前年並みと予測します。

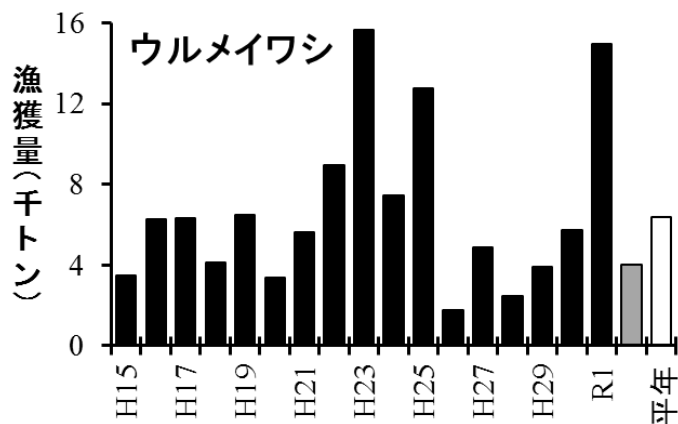


図9. 島根県中型まき網によるウルメイワシの漁獲動向  
※R2年は10月までの集計値

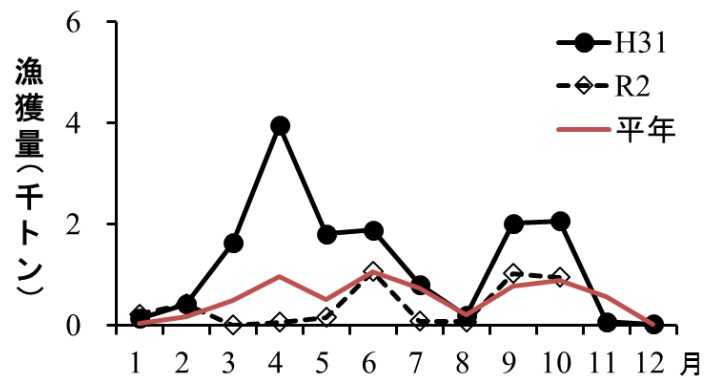


図10. 島根県中型まき網によるウルメイワシの月別漁獲動向